

インターバンクの声（2017年6月29日）

昨夜のロンドン、ニューヨーク外国為替市場では、前日にドラギ ECB 総裁がユーロ圏景気の回復の強まりとデフレ懸念の後退に言及したことで、ECB が早期の金融緩和縮小に向かうという観測が否定される報道と、カーニー英中央銀行総裁の早期の利上げ示唆発言にユーロとポンドが大きく反応した。

ECB が金融引き締めに向かうとの観測を否定した報道は、ドラギ総裁の発言が低インフレの長期化を容認する姿勢を示唆しただけで、利上げが迫っているわけではないとの見方を示した。

もっとも、報道の真偽はともかく、市場の見方が誤っているとされたことでユーロは100ポイント近く急落したが、2時間ほどで元の水準に戻している。ポンドはユーロの動きとは対照的に1.28ドル台中盤から100ポイント超上昇したまま次の反応を待っている。

とにかくポンドは昨年6月のブレグジット以来、何か材料が出ると派手な動きを見せることが多い。方向感の乏しいドル円の取引よりもユーロやポンドの取引に妙味がありそうだが、上手く行けばおいしいが、後手に回った時の痛手も大きいので注意が必要だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。